

# 特集

〈事例〉

## 事故検証と再発防止の話し合い、安全用具推奨など多彩に展開

公益社団法人  
上田地域シルバー人材センター

(長野県)

上田地域SCは、令和3年度の「安全就業優秀シルバー人材センター」として全シ協から表彰された。安全パトロールを3つの形態で実施するほか、事故検証委員会を開いて振り返りをしながら再発防止対策を徹底、安全用具の推奨と使用感のアンケート調査、安全標語の募集など、多彩な取り組みを展開。事故ゼロを目指して、現在は草刈り作業時の事故防止と会員の健康管理の支援に注力している。

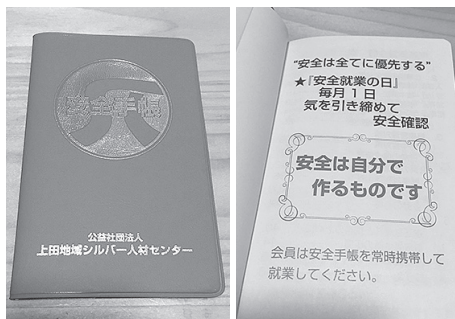
上田地域SCは、二市一町一村で構成し、本所である上田事務所と四支所（東御、丸子、真田、長和）、一連絡所（青木）の体制で事業を行っている。会員組織は地区ごとに組織する地区班が百一班。また、二十七の職群班がある。職群班のうち、草刈り班が最も規模が大きく、約四百人の会員が所属している。

### 「安全は自分で作るもの」

上田地域SCは、令和三年度の「安全就業優秀シルバー人材センター」として全シ協から表彰された。平成二十二年度の優良シルバー人材センターに続いての受賞となる。

理事で安全適正就業委員会の委員長を務める柳沢登美さんは、「表彰はありがたく、会報で会員に周知して安全就業の継続を呼び掛けました。ただ、当センターの事故件数は少ないとは言えず、特に、草刈り作業における事故防止が課題です。安全を何よりも優先し、事故ゼロを目指して、事故防止対策の徹底と会員の安全意識向上に今後も努めていきます」と、引き締まった表情で語った。

同センターでは、「安全は全てに優先する」という考え方を基に、安全を会員が自分の問題として捉えるように啓発。会員が常時携帯する安全手帳には、「安全は自分で作るものです」と記載している。



「安全は自分で作るものです」と、会員が常時携帯する安全手帳の1ページ目に記載している

### 具体的な安全・適正就業対策

安全・適正就業対策には、安全適正就業委員会が中心となって取り組んでいる。委員は、理事五人と会員八人（各地区代表）。

主な活動は、安全パトロールの

実施、事故検証委員会の開催、安全就業・交通安全講習会の開催、安全用具の推奨、安全標語の募集・表彰など。

主な内容は、以下の通り。

〈安全パトロール〉

従来の就業現場視察型パトロールに加え、必要に応じて就業前に行う危険要因の予知・予測を含む就業予定場所パトロール、過去の事故を教訓として生かすための現



令和三年八月に、草刈りの就業現場で行われた長野県SC連合会による安全パトロール

場検証パトロール(どういう場所でどのような事故が起きたかを確認)の三つの形態で実施している。

令和三年度は十七か所で実施し、うち二か所は現場検証パトロール、十五か所は従来型で行った。

従来型のパトロールはほぼ抜き打ちで行い、安全就業基準の順守などを確認する。令和三年度のパトロールでは、強く指摘された事項はなかったものの、服装や装備などで軽微な指摘をされたところがあった。

このほか、長野県SC連合会(以下、連合会)による安全パトロールが毎年実施される。令和三年度は草刈りの就業現場などで行われ、特段の指摘は受けなかった。

〈事故検証委員会〉

令和三年度から開催。事故検証委員は、安全適正就業委員会の委員長および副委員長、事務局長、事務局次長。発生した事故について、就業担当職員と就業グループの会員から発生状況や要因を聞き、

事故を振り返りながらどうすれば防止できたかを話し合い、再発防止につなげる。

〈情報の周知・共有〉

事故が初めて起きたときや、多発したときなどは、安全適正就業委員会でA4用紙一枚に情報をまとめ、会報「上田地域シルバーだより」(年七回発行)、「事務局からのお知らせ」(毎月発行)と共に地区班長が会員に配布。情報共有に努め、注意を喚起している。

〈安全就業・交通安全講習会〉

令和三年度は、新型コロナウイルス感染症防止の観点から、全地域を対象とした安全就業・交通安全講習会の開催を見送り、支所単位での実施を安全適正就業委員会です承。会員懇談会での開催を基本としたが、コロナ禍でそれも中止となり、丸子支所を除いて開催は見送りを余儀なくされた。ただ、予定していた「安全就業・マナー講習会」の講師に講習内容をDVDに収録してもらったことから、

今後、DVD視聴による講習を小規模の集まりで実施していく。

〈飛び石軽減の用具を推奨〉

草刈り作業時の飛び石事故が多いため、飛び石を発生しにくくする用具などの情報を集め、厳選して推奨。購入費用の一部をセンターで補助する。令和二年度は、飛び石軽減刃「隼」<sup>はやぶさ</sup>を推奨したところ、アンケート調査では九割の会員が「飛び石軽減の効果あり」と回答。令和三年度の替え刃は「石飛番」を推奨した。購入した会員に使用感をアンケート調査すると、飛び石防止効果や刃の寿命に一定の評価を得た。

〈安全標語の募集・表彰〉

毎年、会員から安全標語を募集し、入賞作品(最優秀賞、優秀賞、佳作)を選出し表彰する。入賞作品は、毎年五月下旬に開催する定時総会で掲示するほか、会報などに掲載して安全意識向上に役立っている。

令和三年度は、三十六人から六

十八作品の応募があり、委員会で選考の結果、中澤芳江さんの「出来るはず無理と過信が事故まねく」が最優秀賞となった。

連合会でも、安全・適正就業標語を毎年募集しており、上田地域SC会員の全作品を応募。令和三年度は、中澤さんの作品が連合会でも最優秀賞に輝いた。

## 事故発生件数と内容

過去五年間の事故発生件数は、次の通り。

●平成二十九年

傷害事故四件、物損事故二件

●平成三十年

傷害事故七件、物損事故六件

●令和元

傷害事故十二件、物損事故十三件

●令和二

傷害事故九件、物損事故九件

●令和三

傷害事故八件、物損事故十五件

事故内容は、傷害事故では草刈り作業中に溝を飛び越えた際にア



令和4年3月に開催した「松剪定レベルアップ講習会」。座学と実践の両面から、安全に作業を行う方法を学んだ



キレス腱断裂、清掃作業中の打撲、就業途上に凍結した路面で滑り骨折など。体力的な衰えが一因と思われる事故が増えているという。

令和三年度の物損事故は、草刈り作業時が十五件のうち十四件発生。就業件数が多いことが要因の一つともいえる。内容は、飛び石

により車の車体やガラスを傷つける、配線コードを切断するなど。

石井淳専務理事兼事務局長は、「上田地域は石が多いという特性もありますが、いかにこれらの事故を減らすか」と課題を挙げた。飛び石を軽減する刃や飛散防止ネットなど用具で防げることは可能な限り行う一方で、物損事故に対して会員が負担する賠償免責額を二万円とした。以前は、イエロ

ーカードなどのペナルティーを課すといった取り組みも検討した。しかし、現在は事故防止対策の徹底、事故原因の把握と当事者の自覚の促進、会員の理解など安全適正就業委員会の取り組みの強化と、会員のさらなる安全意識向上に力を入れている。

## 事故防止に向けて

草刈り作業における事故検証委員会では、就業時の事前打ち合わせや会員同士の安全チェック、飛び石飛散防止ネットの使用など、基本的な対策ができていないときに事故が発生する傾向が強いことを把握した。

今後の対策として、地区ごとに実施する安全パトロールをほかの地区と相互チェックできる体制にすることを検討。また、草刈りシーズン前に行う会員の器具の点検を、東御地区ではコロナ禍のため個別に実施した。その際、点検後に安全宣言書を各自に書いてもらったところ、安全意識の高揚に効



果的だったとの声が聞かれたため、ほかの地区でも個別対応で同様に実施することを検討している。

### ポイント制度を新設

安全就業・交通安全講習会をはじめ、各種講習会への参加を促す目的で、令和二年度にポイント制度を新設した。コロナ禍のため思うように進んでいないが、会員の反応はまずまずのようだ。  
飛び石軽減の替え刃の推奨・購



「安全就業優秀シルバー人材センター」の賞状を手にする関恵滋理事長（写真左）と、竹内和子副理事長

入に伴うアンケートの回答、安全標語の応募もポイント加算となる。

### 体組成計で健康管理を支援

令和三年三月三十一日時点の会員の平均年齢は、七十三・一歳。毎年上昇しており、平均年齢を超えた会員に適した就業機会の開拓も重要課題となっている。

#### 室賀文字子業務係長兼事務局次長

「毎年、年齢が上がっていきま  
すので、大丈夫、できるよ」とい  
う会員からの返答に、本当に大丈  
夫かなと感じるときがあります。  
無理なく、安全に就業してもらえ  
るよう、事務局では一層の気配り  
が必要と実感しています」と語る。  
平均年齢の上昇に伴い、会員自  
身の病気や体調不良による退会が  
増えているという。そこで、会員  
の健康管理をサポートする取り組  
みの一つとして、労働者派遣事業  
で選任している産業医に、健康ア  
ドバイスを寄稿してもらって、会  
報に掲載している。さらに、令和

四年三月に、体組成計を各支所に配置した。体脂肪率や筋肉量、水分量、基礎代謝量など健康管理

に関するさまざまな計測ができ、

結果を印刷することもできる。一

か月に一回チェックして、自己管

理に活用してほしいと利用を呼び

掛けている。

### 安全もお互いさまの精神で

石井事務局長は、今回の全シ協表彰について、「平成二十二年度に優良シルバー人材センターをいただいて、長く取り組みを続けてきた結果の評価として受け止めています。センター事業では、会員同士が支え合い、周りからも安全を促すことで事故が減ると考えています。就業先をはじめ講習会への参加などでも声を掛け合って、お互いさまの精神で事故防止と健康管理に努めてもらえるように今後

沢さんも、「生きがいを持ち、その人にふさわしい働き方を仲間と支え合いながらすることがセンター事業の理念です。安全も同じ。この理念をみんなで共有できる組織を目指します」と締めくくった。  
(増山美智子)

事業運営状況 (平成28年度～令和2年度)

年度	会員数			粗入会率	就業実人員 (延人員)	就業率	受注件数	契約金額	公民比
	男	女	計						
平成28	1,335	685	2,020	2.8	1,911 (239,151)	94.6	13,632	1,171,850	26.6/73.4
29	1,339	692	2,031	2.8	1,914 (233,506)	94.2	13,138	1,149,956	25.6/74.4
30	1,324	694	2,018	2.8	1,885 (233,798)	93.4	12,640	1,148,130	24.7/75.3
令和元	1,309	697	2,006	2.7	1,898 (229,344)	94.6	12,421	1,169,342	25.2/74.8
2	1,292	691	1,983	2.7	1,688 (207,326)	85.1	12,104	1,090,644	25.0/75.0

※受注件数、就業実人員、契約金額は請負・委任と労働者派遣事業を合計した数値  
 ※就業実人員は平成29年度まで請負・委任、平成30年度以降は請負・委任と労働者派遣事業を対象  
 ※就業実人員は令和2年度から労働者派遣事業の教育訓練受講を含む